

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100716		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七番町 1階		
所在地	愛知県名古屋港区七番町五丁目12番地		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371100716-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活を送る中で日々の生活を有意義なものにして頂けるように支援している。また、自立支援をモットーにご利用者様が自然に暮らしていけるような気持ちや思いを大切に、コミュニケーションを取りながら喜びや楽しみを見つけられるようなケアに務めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

賑やかな街並みから一筋入ったアパートやマンションなどの集合住宅や戸建て住宅、商店などが建ち並ぶ一角に事業所が位置し、2ユニットでデイサービスが併設され、開設から18年の歴史を有している。会社の理念を基に、事業所独自の理念「地域に根を張る七番町、みんなが集う憩いの場」を掲げ、地域とのつながりを大切に支援に努めている。防災訓練や盆踊り、高校生や専門学校実習生の受け入れ、デイサービスとのイベントやレクリエーションなどの交流はコロナ禍により踏み止まっているが、地域の祭りの「子ども獅子」の立ち寄りが2年ぶりに復活予定となり、子どもたちと交流を心待ちにしている。「子ども110番の家」の継続や日々の散歩を通して、行きかう人と挨拶を交わしたり、街並みの四季の変化を感じ取ったりして地域の風情を忘れないようにしている。日々のケアでは、一人ひとりの個別支援に努め、生活に役割を持った自立支援を目指したケアに取り組んでいる。その人らしい生活スタイルや想いが実現し継続できるよう、職員間で話し合い共有してケアにつなげている。入居者は明るくゆったりした居間でテレビを観たり、新聞を読んだり、雑談をしてのんびり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他に事業所理念を掲げて事業所内に掲示している。また、午後の業務前に唱和し共有している。	会社の理念を基に事業所独自の理念「地域に根を張る七番町、みんなが集う憩いの場」と実践目標を事務所や各フロアに掲示している。毎日の申し送り時や会議、研修等で再確認し、職員の行動指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども110番の家の登録を行い子供の避難場所としての役割を担う。町内行事等開催される時は参加できるようにしている。	町内会に加入し、運営推進会議や民生委員から情報を得ている。防災訓練や盆踊りなどはコロナ禍により踏み止まっているが、2年ぶりに復活予定のお祭りでは、地域の子も獅子が立ち寄り、子どもたちと交流できるのを楽しみにしている。中学生の職場体験やボランティア、高校生や専門学校の実習生の受け入れは留まっている。子ども110番の家は継続して登録している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいき支援センターとの情報交換を行い共有し、地域の介護に悩んでいる方の役に立てよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に民生委員、町内会長に参加して頂き情報共有を行いホームの状況報告を行っている。コロナ禍で開催できない時はFAX等で情報を頂いている	コロナ禍により状況を確認しながら開催している。入居者や家族代表の参加は面会制限があるため検討中としている。町内会長、町内副会長、民生委員、包括支援センター職員の参加を得て年6回開催している。事業所の運営や活動状況、ヒヤリハットや事故報告を行い、参加者からは地域の行事や情報提供を受け、意見交換をしている。意見や要望、提案などはその場で話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	港区事業者会に参加して区役所及び区社協の方々意見交換を行っている。コロナ禍の為会議は中止されているがメールでのやり取りを通し情報共有を行っている。	行政担当窓口には介護保険更新の手続きや申請の代行業務、生活保護の相談等で訪問した折に、情報交換をしたり入所事例などで指導や助言を得るなど良好な協力関係を築いている。ZOOM研修の環境を整え研修に参加している。管理者は施設部会の副会長を担い、幹部会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について十分に理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会メンバーを決め勉強会、報告を3ヶ月に1回行っている。防犯上、安全面を考慮し玄関は施錠を行っている。	身体拘束委員会のメンバーを決め、勉強会や報告会を3か月に1回行っている。職員の拘束に対する意識を高め、機会あるごとに話し合いを重ね、職員間で認識の共有を図るようにしている。行動制限やスピーチロックにも配慮して、入居者一人ひとりのその日の気分や状態をキャッチし、職員の見守りの中で開放的で自由な暮らしができるような支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について虐待防止対策担当を決め勉強会を行っている。職員全体で高齢者虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にも利用されている方がいるので、その都度説明をし理解、活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書や重要事項説明書について時間をかけ説明を行っている。十分理解できるよう心掛けている。また、不安や疑問点等あればその都度説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話の中で意見や要望を聞き取りながら運営に反映している。ご家族様には近況報告を行う中で意見、要望を伺うよう努めている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。家族からは電話や面会時、近況報告の機会などで意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。また書類送付時にアンケートを同封し要望を把握している。2か月ごとに行事などの写真や職員からのコメントを載せた「フレンズ通信」を発行して家族に安心を届けている。玄関に意見箱を設置して、意見を言いやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングなどで意見や提案を聞く機会を設けている。また、年2回の人事考課及び面談を行い管理者や他職員、事業所運営に関して提案等できる機会を設けており反映させている。	管理者は、日常のケアの中で、常に職員の声に耳を傾け、なんでも話しやすい環境作りに努めている。毎月の各フロア会議に参加して職員から直接、提案や要望を聞き、運営に反映させている。年2回人事考課を実施し、自己評価を基に自らの力量を正しく理解し、向上心を持ってケアに繋げるよう努めている。また、個人面談や随時話し合う機会を設け、業務や職場環境などに反映させている。キャリアアップ研修は、職員の希望に沿った支援をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップも含め希望者には研修の機会を設けている。また、資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に現場研修期間を設けている。年2回の自己評価の機会を設けレベルアップに繋げている。ミーティング時に介護に関する研修等を行っている。その後議事録にて職員間で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者会や施設部会に参加し情報共有している。コロナ禍の為部会の開催が無いが推進会議等参加し情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談やアセスメントを行い事前に利用者や家族の要望などを確認している。また、不安や混乱等ある時は職員一同情報共有し統一したケアを行い不安や混乱を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い不安や気になることなど傾聴し受け止めるよう努力している。また、気になる事がある時はその都度連絡を密に取り合い不安をなくすよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の要望はケアプランに取り入れ改善に向けてケアを行っている。また、希望や相談がある時は他介護事業や医療、施設等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護者としての立場を踏まえながら日常生活を共に過ごしていく中で学びあい利用者と職員が助け合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には近況報告や情報交換を密に行いケアに繋げていけるよう努めている。コロナ禍の為、郵送等での情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より交流のある方との面会を行ったり、馴染みのある場所へ出掛けたりしていたが現在はコロナ禍の為支援できていない。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人や場所を把握している。コロナ禍により外出制限があるため孫の結婚式や図書館で本を借りるなどの外出支援は自粛している。現在は家族や兄弟と電話で話したり、手紙のやりとりの継続、施設でできる家事仕事、将棋や囲碁、おはじき遊びなどを通して、趣味や昔の生活経験が途切れないよう入居者一人一人の思いに寄り添う支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の自由な時間を十分配慮しながら、孤立しない様レクリエーションや行事で交流して、楽しみを共有する時間作りに努めている。コロナ禍で出来る事に限りはあるが出来る範囲で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も出来る限り継続した生活が送れるよう情報共有を行っている。また、家族様などからの相談等にも出来る限り協力させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体の支援を心掛け、日々の会話の中から希望、意見の聞き取りを行う。ケアプラン等に反映させ可能な限り実行している。	入居者一人ひとりに寄り添い、日常のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートに記載し、全職員で共有しながら支援に努めている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握し、家族から話を聞くなどして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に可能な限りバックグラウンド表を記入して頂き情報提供をお願いしている。利用者からも趣味等伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で一人ひとりの現状を把握しミーティングなどで話し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に事前に意見を頂き、近況報告も合わせて問題点やケアについて話し合っている。また、職員同士が話し合い、必要に応じたケアをじっくりできるように努めている。	職員は入居者の意向や日常の様子を個別記録や申し送りノートに記録しながらケアプランのチェック表の内容を毎日確認している。毎月のサービス担当者会議では、個々の問題や課題について話し合い情報を共有し実践している。計画作成者は3か月ごとにモニタリングを実施し、それと同時に計画の見直しを行っている。ケアカンファレンスでは、本人や家族の意向や医師や訪問看護師など関係者の意見等踏まえながら現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の他に申し送りノートを活用して職員全員が把握できるようにしている。また、ケアプランのチェック表を用いて実行内容を毎日確認把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎など、利用者や家族と話し合い臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、町内副会長と意見交換、情報共有している。また、消防署、交番等へ出向き緊急時の協力体制等確認を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、利用者全員に提携医療機関の内科医による往診を行っている。週1回の訪問看護も行っている提携医療機関以外の受診については家族様に依頼をしている。必要に応じて事業所でも対応している。	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いているが全員提携医に変更している。内科は月2回の往診、眼科及び皮膚科は月1回の往診が受けられる。また、希望者は歯科医による治療が受けられる。専門科の受診は提携医が情報提供書を作成し、病院の予約を取った上で家族の協力を得て受診をしている。受診の情報は提携医と共有している。訪問看護師を含め24時間体制の医療連携により、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を依頼しており、利用者の健康管理や、健康面での相談、助言などに協力して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のケースワーカーや医師、看護師と情報交換を行い必要に応じた支援が出来るよう努めている。また、退院時は対応や情報交換を密に行い迅速な対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者と家族に、重度化における医療サービス提供内容に関する指針を説明し、同意を得ている。必要に応じてその都度説明を行い、同意を得ている。	看取りの実績があり、入居時に重度化した場合や終末期についての説明を行っている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は、その都度入居者や家族に希望を再確認し、医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、入居者にとって最善の援助ができるよう支援をしている。職員は看取りに向けてチームで取り組む支援に努め、看取りやメンタルケアについての研修を毎年行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、主治医や管理者等連絡網の把握を徹底している。ミーティング時等に対応方法など話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て年3回防災訓練を消防署職員の指導のもと実施している。訓練前に防災会議の中で想定を決め、利用者にも協力して頂き実施している。災害時の備蓄についても備えている。	年3回消防職員の指導の下、火災や地震、水害を想定した避難訓練を昼間、夜間帯の職員体制で実施している。消火訓練や広域避難場所の小学校に避難する訓練などを実施し、より安全な避難誘導ができるよう話し合いを重ねている。備蓄は、職員の分を含め3日分の水や食料が確保され、期限の確認も行っている。その他に医療セットや懐中電灯、カセットコンロなども用意され、施設の屋上に保管されている。	最近では想定外の災害が起こる可能性も想定して訓練を行っているが、急な浸水により小学校に避難することが困難な場合もある事も想定し垂直移動の避難誘導も必要と思われる。今後の防災会議の中で柔軟な対応ができるよう検討し、実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務についての契約書を交わしている。プライバシーを守り利用者に合わせたケアを心掛けるようにしている。	人生の先輩として尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使いに配慮して、入居者の個性や人格、相性や性差などを考慮した支援に努めている。理念に振り返りながら職員の意識の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、自己決定を重視した支援を心掛けている。また、表情等を読み取り、意思を尊重出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望に配慮して、自己決定を重視した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、利用者の希望に合わせて行って頂いている。化粧品等も希望があれば購入するなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は出来る範囲で職員と一緒に行って頂いている。献立は職員が作成しているが日々の会話の中で懐かしい献立など伺い反映出来るよう努めている。また、出来る範囲で下膳等行って頂いている。	季節の食材を購入し、入居者の希望のメニューや慣れ親しんできた家庭料理を中心に職員が献立し、毎食手作りしている。入居者はコロナ禍のため机拭きや下膳など、今できる範囲で手伝いをしていく。職員も同じ食事を取り、味付けや彩のチェックをしている。敬老会の弁当やハンバーガー、おせち料理などの行事食やおはぎやホットケーキ、どら焼きなどのおやつ作りも楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事量や水分摂取量の把握をしている。主治医の意見などを踏まえて一人ひとりに合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び食後に声掛けを行い、口腔ケアを行っている。必要に応じて介助を行っている。また週1回歯科衛生士の方による口腔ケア、必要に応じて歯科治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄回数や排泄リズムの把握に努めている。失敗を無くし、いけるよう声掛けや誘導を行い対応している。	排泄状況をチェック表で確認し、排泄パターンを把握したり、表情や行動から察知してトイレ誘導を行っている。プライバシーに配慮した声かけやタイミングなどを工夫し、座位での排泄の維持とできるだけ布パンツで過ごせるような自立支援に努めている。夜間も、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、見守りと誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、運動を心掛けている。また、便秘がちの方は特に水分量や野菜摂取量に注意している。排便チェック表を用いて排便リズムを把握できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきとしているが要望があれば毎日入浴して頂いている。入浴の無い日は要望に応じて足浴を行っている。入浴、足浴時には入浴剤を使用しリラックスして頂けるよう努めている。	入浴は一日おきを基本とし、要望があればいつでも入浴や足浴ができる環境を整えている。浴室にリフトを設置して身体の状態に合わせた入浴支援をしている。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤で変化や楽しみを取り入れている。シャンプーやボディソープ、ボディタオルなど好みのものを用意し、入浴後は化粧水等で肌の乾燥を防いでいる。入浴を拒む方には、声かけやタイミングを工夫し、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望や要望を取り入れながら、安心して休息して頂けるような環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、用法・用量を理解している。内容を把握し医師、看護師、薬剤師との連携を図っている。また、職員が確認できるようにファイルにまとめている。内服薬の変更時も確認、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表やバックグラウンド表、利用者の要望を取り入れ、好きな事や今までの生活で行ってきたことを出来る限り取り入れ日々の生活で役割や生きがいを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの要望に対して家族の協力を得ながら出来る限り支援できるよう努めてきたが、コロナ禍であり、通院での外出のみでの支援になっている。そのため、毎日の散歩は出来る限り支援している。	コロナ禍ではあるが出来る限り、お天気の良い日には散歩に出かけ、外気に触れる支援をしている。遠出の外出は、コロナの感染状況を確認しながら、ドライブをしながらお花見に行ったり、お茶とお菓子を携帯して公園を散歩するなど四季を感じられるような支援に努めている。今後、今までしてきた外出支援が再開されることを願い行事計画を立てている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、トラブルを防ぐため管理者が管理を行っている。自己管理の出来る利用者についてはお小遣い程度ではあるが家族の了解のもと自己管理を行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて自由に電話を使用して頂いている。手紙についても準備や、必要に応じて代筆、投函等行っている。特に今は面会が出来ない分積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には利用者が使いやすいように工夫している。季節感を感じる事の出来るように壁面には季節に合った飾りを工夫している。コロナ禍であまり外出する事が出来ないため、より季節を感じられるような工夫をしている。	居間と食堂がワンフロアの共用空間で、明るく開放感がある。壁には、手作りカレンダーや季節に応じた折り紙作品を掲示して四季の移り変わりが感じられるよう工夫している。また懐かしいポスターや行事の写真を掲示し、回想法や会話の一助としている。廊下や玄関等の共用空間では臭いや音など不快な刺激がないように配慮している。入居者は食堂やソファ、畳コーナーなど思い思いの場所でテレビを見たり新聞を読んだりしてのんびり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での区切りはないがソファが設置されており、仲の良い利用者同士がくつろげる居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の写真や名前が飾られ、わかりやすく工夫している。また、入居時にご家族と相談をし使い慣れた家具や小物類を持って来て頂き安心感を持って過ごして頂くようにしている。	居室入り口にはオリジナルの表札を掲げ、季節を感じる作品を飾り自分の住まいとしての環境を整えている。居室に手すりを設置し転倒防止に配慮している。また、使い慣れたベットやタンス、テレビなどを持ち込み、家族の写真や好みのものを飾って落ち着けるスペースを確保している。居室の清掃ができる方は自身で行い自立支援に向けた取り組みをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーになっており壁側には手摺を設置している。名前や張り紙等で自分の部屋をわかりやすくしている。また、トイレも張り紙をしわかりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100716		
法人名	株式会社フレンズハウス		
事業所名	グループホーム フレンズハウス七番町 2階		
所在地	愛知県名古屋港区七番町五丁目12番地		
自己評価作成日	令和4年9月13日	評価結果市町村受理日	令和5年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371100716-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和4年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活を送る中で日々の生活を有意義なものにして頂けるように支援している。また、自立支援をモットーにご利用者様が自然に暮らしていけるような気持ちや思いを大切に、コミュニケーションを取りながら喜びや楽しみを見つけられるようなケアに務めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

賑やかな街並みから一筋入ったアパートやマンションなどの集合住宅や戸建て住宅、商店などが建ち並ぶ一角に事業所が位置し、2ユニットでデイサービスが併設され、開設から18年の歴史を有している。会社の理念を基に、事業所独自の理念「地域に根を張る七番町、みんなが集う憩いの場」を掲げ、地域とのつながりを大切に支援に努めている。防災訓練や盆踊り、高校生や専門学校実習生の受け入れ、デイサービスとのイベントやレクリエーションなどの交流はコロナ禍により踏み止まっているが、地域の祭りの「子ども獅子」の立ち寄りが2年ぶりに復活予定となり、子どもたちと交流を心待ちにしている。「子ども110番の家」の継続や日々の散歩を通して、行きかう人と挨拶を交わしたり、街並みの四季の変化を感じ取ったりして地域の風情を忘れないようにしている。日々のケアでは、一人ひとりの個別支援に努め、生活に役割を持った自立支援を目指したケアに取り組んでいる。その人らしい生活スタイルや想いが実現し継続できるよう、職員間で話し合い共有してケアにつなげている。入居者は明るくゆったりした居間でテレビを観たり、新聞を読んだり、雑談をしてのんびり過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の他に事業所理念を掲げて事業所内に掲示している。また、午後の業務前に唱和し共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子ども110番の家の登録を行い子供の避難場所としての役割を担う。町内行事等開催される時は参加できるようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいき支援センターとの情報交換を行い共有し、地域の介護に悩んでいる方の役に立てよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に民生委員、町内会長に参加して頂き情報共有を行いホームの状況報告を行っている。コロナ禍で開催できない時はFAX等で情報を頂いている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港区事業者会に参加して区役所及び区社協の方々との意見交換を行っている。コロナ禍の為会議は中止されているがメールでのやり取りを通し情報共有を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について十分に理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会メンバーを決め勉強会、報告を3ヶ月に1回行っている。防犯上、安全面を考慮し玄関は施錠を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について虐待防止対策担当者を決め勉強会を行っている。職員全体で高齢者虐待のないケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中にも利用されている方がいるので、その都度説明をし理解、活用の支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書や重要事項説明書について時間をかけ説明を行っている。十分理解できるよう心掛けている。また、不安や疑問点等あればその都度説明するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との会話の中で意見や要望を聞き取りながら運営に反映している。ご家族様には近況報告を行う中で意見、要望を伺うよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングなどで意見や提案を聞く機会を設けている。また、年2回の人事考課及び面談を行い管理者や他職員、事業所運営に関して提案等できる機会を設けており反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップも含め希望者には研修の機会を設けている。また、資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に現場研修期間を設けている。年2回の自己評価の機会を設けレベルアップに繋げている。ミーティング時に介護に関する研修等を行っている。その後議事録にて職員間で共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	港区事業者会や施設部会に参加し情報共有している。コロナ禍の為部会の開催が無いが推進会議等参加し情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談やアセスメントを行い事前に利用者や家族の要望などを確認している。また、不安や混乱等ある時は職員一同情報共有し統一したケアを行い不安や混乱を取り除けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を行い不安や気になることなど傾聴し受け止めるよう努力している。また、気になる事がある時はその都度連絡を密に取り合い不安をなくすよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の要望はケアプランに取り入れ改善に向けてケアを行っている。また、希望や相談がある時は他介護事業や医療、施設等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が介護者としての立場を踏まえながら日常生活を共に過ごしていく中で学びあい利用者と職員が助け合い生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時には近況報告や情報交換を密に行いケアに繋げていけるよう努めている。コロナ禍の為、郵送等での情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より交流のある方との面会を行ったり、馴染みのある場所へ出掛けたりしていたが現在はコロナ禍の為支援できていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の自由な時間を十分配慮しながら、孤立しない様レクリエーションや行事で交流して、楽しみを共有する時間作りに努めている。コロナ禍で出来る事に限りはあるが出来る範囲で提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も出来る限り継続した生活が送れるよう情報共有を行っている。また、家族様などからの相談等にも出来る限り協力させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者主体の支援を心掛け、日々の会話の中から希望、意見の聞き取りを行う。ケアプラン等に反映させ可能な限り実行している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に可能な限りバックグラウンド表を記入して頂き情報提供をお願いしている。利用者からも趣味等伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士で一人ひとりの現状を把握しミーティングなどで話し合い把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に事前に意見を頂き、近況報告も合わせて問題点やケアについて話し合っている。また、職員同士が話し合い、必要に応じたケアをじっくりできるように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入の他に申し送りノートを活用して職員全員が把握できるようにしている。また、ケアプランのチェック表を用いて実行内容を毎日確認把握している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や送迎など、利用者や家族と話し合い臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、町内副会長と意見交換、情報共有している。また、消防署、交番等へ出向き緊急時の協力体制等確認を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、利用者全員に提携医療機関の内科医による往診を行っている。週1回の訪問看護も行っている提携医療機関以外の受診については家族様に依頼をしている。必要に応じて事業所でも対応している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を依頼しており、利用者の健康管理や、健康面での相談、助言などに協力して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のケースワーカーや医師、看護師と情報交換を行い必要に応じた支援が出来るよう努めている。また、退院時は対応や情報交換を密に行い迅速な対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者と家族に、重度化における医療サービス提供内容に関する指針を説明し、同意を得ている。必要に応じてその都度説明を行い、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルがあり、主治医や管理者等連絡網の把握を徹底している。ミーティング時等に対応方法など話し合いを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て年3回防災訓練を消防署職員の指導のもと実施している。訓練前に防災会議の中で想定を決め、利用者にも協力して頂き実施している。災害時の備蓄についても備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時に守秘義務についての契約書を交わしている。プライバシーを守り利用者に合わせたケアを心掛けるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら、自己決定を重視した支援を心掛けている。また、表情等を読み取り、意思を尊重出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望に配慮して、自己決定を重視した支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用し、利用者の希望に合わせて行って頂いている。化粧品等も希望があれば購入するなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は出来る範囲で職員と一緒に行って頂いている。献立は職員が作成しているが日々の会話の中で懐かしい献立など伺い反映出来るよう努めている。また、出来る範囲で下膳等行って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて食事量や水分摂取量の把握をしている。主治医の意見などを踏まえて一人ひとりに合わせた対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び食後に声掛けを行い、口腔ケアを行っている。必要に応じて介助を行っている。また週1回歯科衛生士の方による口腔ケア、必要に応じて歯科治療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄回数や排泄リズムの把握に努めている。失敗を無くしていただけるよう声掛けや誘導を行い対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩、運動を心掛けている。また、便秘がちの方は特に水分量や野菜摂取量に注意している。排便チェック表を用いて排便リズムを把握できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には一日おきとしているが要望があれば毎日入浴して頂いている。入浴の無い日は要望に応じて足浴を行っている。入浴、足浴時には入浴剤を使用しリラックスして頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の希望や要望を取り入れながら、安心して休息して頂けるような環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に基づき、用法・用量を理解している。内容を把握し医師、看護師、薬剤師との連携を図っている。また、職員が確認できるようにファイルにまとめている。内服薬の変更時も確認、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表やバックグラウンド表、利用者の要望を取り入れ、好きな事や今までの生活で行ってきたことを出来る限り取り入れ日々の生活で役割や生きがいを持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの要望に対して家族の協力を得ながら出来る限り支援できるよう努めてきたが、コロナ禍であり、通院での外出のみでの支援になっている。そのため、毎日の散歩は出来る限り支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、トラブルを防ぐため管理者が管理を行っている。自己管理の出来る利用者についてはお小遣い程度ではあるが家族の了解のもと自己管理を行って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて自由に電話を使用して頂いている。手紙についても準備や、必要に応じて代筆、投函等行っている。特に今は面会が出来ない分積極的に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分には利用者が使いやすいように工夫している。季節感を感じる事の出来るように壁面には季節に合った飾りを工夫している。コロナ禍であまり外出する事が出来ないため、より季節を感じられるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での区切りはないがソファが設置されており、仲の良い利用者同士がくつろげる居心地の良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の写真や名前が飾られ、わかりやすく工夫している。また、入居時にご家族と相談をし使い慣れた家具や小物類を持って来て頂き安心感を持って過ごして頂くようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーになっており壁側には手摺を設置している。名前や張り紙等で自分の部屋をわかりやすくしている。また、トイレも張り紙をしわかりやすくしている。		